

福岡県公立高校入試徹底分析【理科】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	60点
問題構成	大問8題。生物・化学・地学・物理の分野ごとに大問2題。1は植物の分類とからだのつくり、2は生態系と炭素の循環、3は金属と酸素の化合、4は炭酸水素ナトリウムの熱分解、5は月と金星の見え方、6は火山と火山灰、7は電流と発熱、8は浮力で、配点は各分野15点ずつであった。		

	令和8年度 (2026)	令和7年度 (2025)	令和6年度 (2024)	令和5年度 (2023)	令和4年度 (2022)
問題量（A4で）	9ページ分	9ページ分	9ページ分	9ページ分	9ページ分
小問数	31問	33問	33問	32問	33問
論述問題の数	14問	14問	10問	10問	8問
論述問題配点	27点	23点	21点	18点	16点
受験者平均点	31点	29点	38点	38点	37点

【出題の傾向と対策】

- ① ほぼ同じ内容の記述・作図問題が数年後に出題されているので、過去問を数年分は解いておく必要がある。

R8 8（一部問題文を変更）

問2 下の□内は、この実験の結果を考察した内容の一部である。

図2から、物体の全体が水に入るまでは、物体の（①）ほど、物体にはたらく浮力の大きさは大きくなる。また、物体の全体が水に入ったあと、物体を水中でさらに下ろしていく間は、物体にはたらく浮力の大きさは変化しない。このように、浮力の大きさが変化しないのは、水面から物体の下面までの距離が大きくなると、物体の全ての面に加わる水圧は②（ア 小さく イ 大きく）になるが、物体の（③）であるからと考えられる。

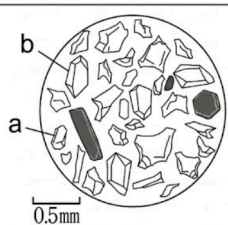
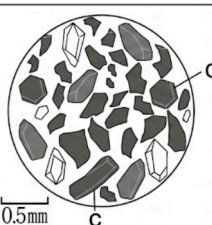
- (2) 文中の②の（ ）内から、適切な語句を選び、記号を書きなさい。また、（③）にあてはまる内容を、「上面」、「差」の2つの語句を用いて、簡潔に書きなさい。

① 水中において浮力が生じるしくみは、令和4年度にも出題されている。

この他に、単子葉類の葉脈のスケッチ（令和8年度・平成27年度）、銅の質量と化合する酸素の質量の関係のグラフ作図（令和8年度・平成29年度）、マグマのねばりけと火山の形（令和8年度・平成31年度）、観察するものが動かさせない（動かせる）場合のルーペの使い方（令和8年度・平成28年度）など。

- ② 問題の中の数値やグラフから、答えを導く問題が出題される。そのため、数値やグラフなどを必ず確認をする必要がある。
- ③ 指定語句の使用が求められるため、キーワードチェックをする必要がある。

R8 6（一部問題文を変更）

表	火山灰	X	Y
火山灰のスケッチ			
観察で気づいたこと	Xは、Yに比べて全体的に白っぽい色をしていた。Xには、無色で不規則な形のaや白い柱状のbがふくまれ、Yには、こい緑色で長い柱状のcや黒色で板状のdがふくまれていた。		

③ 指定語句

- 問1 表の下線部のように見える理由を、「鉱物」、「割合」の2つの語句を用いて、簡潔に書きなさい。

この他に、令和8年度の入試問題では、大問2の間2、大問5の間3(2)、大問6の間4(1)、大問8の間2(1)、(2)などが指定語句のある問題になっている。

④ 作図問題が必ず出題されるので、教科書・テキストを使って作図の練習をする必要がある。

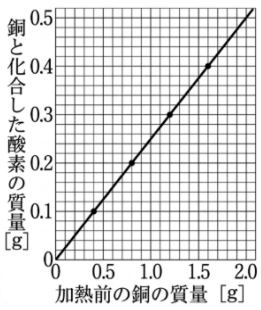
R8 1(一部抜粋・一部変更)

問2 図3は、スズメノカタビラの葉の形のスケッチである。スズメノカタビラの葉脈のようすを、その特徴がわかるように、解答欄の図3中にかきなさい。



R8 3(一部抜粋・一部変更)

問2 図1をもとに、「加熱前の銅の質量」と「銅と化合した酸素の質量」の関係を、解答欄の図2にグラフで表しなさい。なお、グラフには、求めた値を・で示すこと。



④ 単子葉類の葉脈のスケッチは平成27年度にも出題されている。

④ 銅の質量と化合する酸素の質量の関係のグラフ作図は平成29年度にも出題されている。

令和8年度は上記に加え大問7の回路図や水の上昇温度のグラフ、大問8の浮力の作図も出題されている。

⑤ 先生と生徒の会話文が出題されており、会話の流れから空欄を埋めていく流れになってる。

R8 5 (一部抜粋・一部変更)

先生：月の観察記録から、どのようなことがわかりますか。

悠さん：日がたつにつれて、見える月の形は変化し、同じ時刻に見える月の位置は、少しずつ①(ア 東 イ 西)の空へ移動しました。

陽さん：月は太陽の光を反射してかがやいています。そして、月は地球の②(ウ 衛星 エ 恒星)であり、日がたつにつれて、地球と太陽、月の位置関係が変化します。そのため、見える月の形は変化し、同じ時刻に見える月の位置も移動します。

問2 会話文中の①、②の()内から、それぞれ適切な語句を選び、記号を書きなさい。

⑤ 悠さんと陽さんと先生の会話の流れから考察する必要がある。

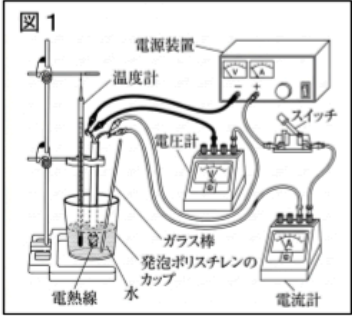
会話形式は近年2題出題されていたが、令和8年度の入試問題では大問5の1題のみに変更となった。

⑥ 実験の考察問題が出題されているので、実験の目的・結果を整理する力が求められる。

大問7において非常に難易度の高い「電力と電熱線で発生する熱量および水の上昇温度の関係の考察」の問題が出題された。

R8 7 問3 (一部問題文を変更)

図1の装置で用いた電熱線とは抵抗の大きさが異なる電熱線を4つ用いて、図3のXとYを準備した。なお、この4つの電熱線は、抵抗の大きさが全て同じである。次に、図1の装置で用いた電熱線を図3のXまたはYにかえ、それぞれに3.0Vの電圧を加えて、水の温度変化を調べた。Xにかえたときの、「電流を流した時間」と「水の上昇温度」の関係をグラフで表すと、図4のようになった。このとき、図2、図4から、Xに用いている電熱線1つの抵抗の大きさは何Ωか求めなさい。また、Yにかえたときの、「電流を流した時間」と「水の上昇温度」の関係を、解答欄の図4にグラフで表しなさい。



	A班	B班	C班
電圧[V]	2.0	3.0	4.0
電流[A]	1.0	1.5	2.0
電力[W]	2.0	4.5	8.0

